

逆転! 逆転! 逆転! 全日本団体制したキンスポ



20年ぶりの全国優勝を達成し、表彰式後に嬉しさのあまり男泣きをする高橋龍平

20年ぶりの栄冠 居合道部 全日本

決勝戦メンバー

先鋒 **柳井果林**
文芸3回生
○敗北 1-2

次鋒 **菅野杏里**
文芸3回生
○敗北 1-2

中堅 **高橋龍平**
総合社会4回生
○勝利 3-0

副将 **田軼**
文芸4回生
○勝利 3-0

大将 **河井彩夏**
総合社会3回生
○勝利 2-1



近大スポーツ

KINDAI Sports

増刊号 2016年12月22日(木曜日)

高橋は、「全員で繋いで掴んだ優勝。個人戦で結果を残せなかったので、団体戦で優勝したいと思っていました。それが叶って本当に良かったです」と選手全員で勝ち取った優勝の喜びを噛み締めた。案外試合はなく、全て追い込まれてからの逆転勝利だった。粘って粘っての苦しい試合にもかかわらず、誰一人集中力を欠くことなく挑み続けて得た勝利。

だが、この優勝で終わりではない。今度は挑戦者から、追われる立場に変わる。王者の名に恥じぬよう、選手たちは己が道を究めるため歩み続ける。「岡田春菜」

高橋は、「全員で繋いで掴んだ優勝。個人戦で結果を残せなかったので、団体戦で優勝したいと思っていました。それが叶って本当に良かったです」と選手全員で勝ち取った優勝の喜びを噛み締めた。案外試合はなく、全て追い込まれてからの逆転勝利だった。粘って粘っての苦しい試合にもかかわらず、誰一人集中力を欠くことなく挑み続けて得た勝利。

だが、この優勝で終わりではない。今度は挑戦者から、追われる立場に変わる。王者の名に恥じぬよう、選手たちは己が道を究めるため歩み続ける。「岡田春菜」

全日本学生居合道大会 去年の優勝者である同志社大、今年の個人戦での優勝者、準優勝者を擁していた立命館大。さらに入賞常連校の強豪、京都大を撃破しての優勝。去年、一昨年と4位に終わっていた近畿大が会場中の注目を集め、誰も予想のできない大番狂わせを起こした!!

近畿大が頂点に立った時、会場がどよめいた。決勝戦で格上の京都大を下し20年ぶりの団体戦全国優勝を果たした選手たちの目には涙が浮かんでいた。

決勝戦、先鋒、次鋒と連敗し、後がなくなり勝負はここまでかと思われた。だが、選手たちは誰一人諦めていなかった。中堅の前主将・高橋龍平(総合社会4)は「ここで流れを変えてやろうと思っていた」と気迫のこもった美しい演武を見せ、3対0で相手を下す。間違いないこの勝利が試合の流れ、空気を変えた。この流れに続けと副将の田軼(文芸4)もきっちりとストレートで勝ちを収める。大将戦を任されたのは主将の河井彩夏(総合社会3)。会場にいた全員が、固唾を呑み勝負の行方を見守っていた。静寂の中、判定の旗が上がった瞬間、近畿大は惜しめない拍手を受け、日本一に輝いた。

掴んだ栄光

諦めない心